

(第三種郵便物認可)

担い手確保へ魅力・役割発信

7月31日付で東北建設業青年会の新会長に就任した清水隆成氏（秋田県鹿鹿市、清水組社長）が記者会見し、「東北は全国で最も早く人口減少が進行しているだけに、建設業の担い手確保に向けて積極的に活動していく必要がある。戦略的広報活動の前線部隊として汗をかかすとともに、社会貢献にもしっかり取り組んでいきたい」と抱負を述べた。働き方改革や新型コロナウイルス感染症防止などへの対応が求められる中、同会の運営方針などを聞いた。



東北建設業青年会会長
清水 隆成氏に聞く

週休2日、i-CONも推進

— 就任の抱負を

「24年という歴史ある組織のかじ取り役」としての重責に身が引き締まる思いだ。自覚と責任を持ち全身全霊で取り組んでいきたい」

「ことは東日本大震災から10年目という大きな節目を迎えている。災害列島とも言われる日本で暮らすわれわれは、地震を始めとする自然災害と向き合わなければならぬ宿命にある。防災・減災、国土強靱化という大事な仕事を建設業が担っていることを発信していきたい」

— 会の運営方針は

「青年会も親会（県建設業協会）と同じく経営者という立場にあり、地域の雇用創出や、建設業界以外の団体との連携による地域活性化に貢献することが大きな役割だ」

「喫緊課題である担い手確保・育成や週休2日制導入、生産性向上などを進めるには、安定した経営基盤が前提になる。このため、社会資本整備に対する理解促進に向けて政治家や学識者、マスコミと連携して活動を展開したい」

— 担い手不足に対する

現状認識とその確保・育成に向けた取り組みは「東北地方は人口減少のスピードが速く、担い手不足が危機的状況にある。いま、若い世代を建設業界に入れないと、これまで継承してきた建設技術が失われてしまう。建設業が社会に果たしている役割をしっかりとアピールし、「自分も建設業で働きたい」という若者を増やしていかなければならない」

「そのためにも中高生、大学生らに直接アプローチする必要がある。当会では、東北

然に左右される部分もあるが、導入に向けて努力する必要がある」

— 生産性向上の取り組みは

「週休2日工事と同様に、国主導でi-Constructionという新たな取り組みをわれわれに示してくれている。これに対して『いままでどおりで良い』と言つのはなく、どんどんチャレンジしていくべきだ。その先頭に立つのがわれわれの世代ではないか」

— 会員へのメッセージ

地方整備局と東北建設業協会連合会が共催している『就活ゼミ』の講師を引き受けており、こうした活動を通じて建設業の魅力を伝えたい」

「週休2日制の導入も不可欠だ。学校や官公庁が週休2日であるにもかかわらず、建設会社に入ったら休めなくなるのでは、就職の初期段階で悪いイメージを持たれてしま

ろ。国や県が週休2日工事に對してインセンティブ（優遇措置）を付与しているのに、われわれが『対応できない』と言つのは甘えだ。天候や自

「約9年半前に東日本大震災が発生し、現在はコロナ禍に見舞われているが、どのような状況下にあっても業績を伸ばしている企業やサービスはあ。青年会メンバーは今後30年、40年と会社を営んでいくことになると思うが、その間に震災やコロナ禍と同じようなことは起こり得る。そうしたピンチにあってもチャンスをつかめるように情報を共有していきたい」

（しみず・たかあき）2001年3月法政大経営学部経営学科卒業後、同年4月宮城建設入社。06年1月清水組に移り、14年取締役副社長・建設事業担当を経て、19年4月第5代社長に就任。男鹿市出身。42歳。

東北建設業青年会会長 清水隆成氏(秋田)に聞く

担い手確保へ発信力強化

変革に対応できる経営基盤に

東北建設業青年会の新会長に就任した清水隆成氏(秋田県男鹿市、清水組代表取締役社長)に、地域の安全・安心を担う地元建設産業の役割とともに喫緊の課題となる担い手の確保に向けての戦略を聞いた。清水会長は、若者の入職促進に向けて発信力の強化を強調。「時代に求められる変化にしっかりと対応していくことが必要」と語った。

して、身が引き締まる思い。自覚と責任を持ち全身全霊で取り組んでいきたい。東日本大震災から10年という大きな節目を迎える。この間、震災以降も甚大な自然災害が全国各地で相次ぎ、そして新型コロナウイルスという新たな社会問題が起きている。昔から疫病と闘い、地震をはじめ自然災害と向き合いながら、脆弱な国土で生きるといふ事実を防災・減災、国土強靱化という社会資本整備に携わる我々から発信していききたい。

東北地方は全国でも早く人口減少が進行し、担い手不足により技術の継承が失われるという危機的な状況になっている。そのためには建設業が果たしている役割を社会に積極的にアピールし、素晴らしい仕事を担っているという若者を増やしていく必要がある。戦略的広報活動を通じ、汗をかきながら社会貢献活動を展開していききたい。

— 就任にあたって24年という歴史ある東北建設業青年会の会長と



た教訓を財産として引き継ぎ、次のステップとしてこれからやるべき社会インフラの再構築を強く発信することが必要だ。

— 青年会活動

経営者の立場として、地域における雇用の創出と建設業以外の団体との交流・連携で地域の活性化に貢献することが重要。働き方改革とともに担い手確保・育成、週休2日制、生産性向上を実現するために安定した基盤が前提であり、我々の応援団である先生方や

マスコミを味方にして、公共事業やインフラの理解を広げていきたい。

官公庁も学校も週休2日が当たり前になっていくなか、時代に求められる変化にしっかりと対応していくとともに、i-Construction等についても、チャンスがあればまずはチャレンジしていく姿勢が必要だ。コロナの影響で遠隔による検査の拡大など世の中が変わることで我々も変化し、それが若者の入職促進のアピールポイントにもなる。

— 担い手確保の具体策
直接、中・高校生と会話する場を大事にしたい。東北地方整備局と共同で行う「就活ゼミ」などを通じ、建設業の仕事の面白さをPRすることで、興味を持つてもらえる学生を増やしていきたい。

— 発信機関への要望

建設業界の働きやすい環境整備や魅力アップにつながる施策など、国をあげてバックアップしてもらっている。入札・契約制度等については、新担い手3法が市町村に浸透が広がることを期待し

ている。

— 会員へのメッセージ
ブランド・ハップネスダンスセオリー(計画的偶発性理論)という成功者のキャリアの8割は偶然によってできているという意味がある。偶然をチャンスだと認識できるか、そして想定しないことをチャンスとしてつかみ、応えられるよう視野を広げるなど準備をしていくことを心掛けていきたい。

建設業が高齢化するなか、建設会社として世代交代を繰り返しながら、地域で生き残っていかなければならない。除雪の契約ができない市町村があるなど地元建設業として持続していくことが地域の応援ができることが建設業の魅力でもあり、みんなでスキルアップを図っていききたい。

プロフィール

しみず たかあき
1978年2月16日生、秋田県男鹿市出身。法政大学経営学部経営学科を卒業し、01年4月宮城建設に入社。06年1月に清水組入社。14年4月取締役副社長・建設事業担当、19年4月から代表取締役社長に就任。42歳。

戦略的広報で担い手確保

ひと



7月31日付で24代目の会長に就任。東北のこれからの建設業を担う若手経営者を代表する立場として「重責に身が引き締まる思いだ。自覚と責任を持ち、社会全霊で取り組みたい」。社会

東北建設業青年会会長に就任した

しみず たかあき
清水 隆成氏

資本整備の担い手として防事。若者に直接訴える場を
災・減災、国土強靱化や地域作っていききたい」と説明。
活性化につながる社会貢献東北地方整備局が各地で開
に意欲を見せる。催している「就活ゼミ」の
活動方針の柱に挙げるの場などを活用する方針だ。

が担い手確保策として建設若い人たちが働きやすい
業の社会的役割を発信する職場づくりの必要性も提
「戦略的広報活動」。全国で唱。「一番は週休2日。そ
も特に人口減少が深刻な東の環境を発注者側も整えて
北の地域特性を踏まえ、「担きてくれている。i-CO
い手不足は現実には危機的なnstructionなど
状況だ。(建設業で働きたい新しいことにもチャレンジ
という)若者を増やしていしていききたい」と意気込む。

きながら活動していきたくて話す。
戦略的広報活動の具体策
については「高校生や中学
生らと会話することが大
2001年法政大学経営
学部経営学科卒、宮城建設
入社。06年清水組に入り、
14年取締役副社長・建設事
業担当、19年4月社長。秋
田県男鹿市出身、42歳。

担い手確保には直接対話でアピール

地域の雇用創出と活性化へ全力で

東北建設業 青年会 清水隆成新会長が就任会見

東北建設業青年会の24代目会長に就任した清水隆成氏（清水組・秋田県男鹿市）が20日、専門紙との会見に臨んだ。この中で、清水新会長は地域の雇用創出と活性化が青年会の大きな役割と強調。喫緊の課題である担い手確保へは、直接対話などを通じて建設業の魅力アピールするとともに、週休2日といった環境整備にも取り組む姿勢を示した。



清水 24年の歴史に渡って歴代会長の皆さんが築いてきた6県会長という重責を担うこととなり、身が引き締まる思いだ。自覚と責任を持ちながら、全身全霊で取り組んでいきたい。特に、本年度は東日本大震災から10年という節目でもある。この間、時代は大きく変わ

り、最近では新型コロナウイルスという新たな社会問題も起きています。こうした中、地震をはじめとした自然災害に対して強い弱な国土の防災、減災、強靱化に向けた社会資本整備の重要性と震災などで得た数々の教訓を次の世代に確実に伝承していくことが重要と考えている。

一方、東北地方は少子化などで全国でも人口減少が進行しており、担い手不足が喫緊の問題だ。早急に若手の入職を促進し技術を継承していかなければ、先人が築き上げてきた建設技術が失われてしまう危機感を強く持つている。そのためにも、建設業が社会に果たしている役割をしっかりとアピールし、建設業に進みたいという若者が増えるよう戦略的な広報活動の最前線として汗をかきながら、社会貢献活動を行っていきたく考えている。

青年会としてどういった活動を展開していくか
清水 名称は青年会だが親会と同じく経営者の立場にあるので、地域における雇

用の創出と、建設業以外の団体とも連携しながら地域の活性化を図ることが大きな役割と認識している。今、業界が抱える課題が働き方改革や担い手確保、週休2日、生産性向上など一時代前とは変わってきている面もある。われわれの世代だからこそ感じる課題に対して取り組んでいきたい。

就任に際して週休2日も選択の大きなテーマとなっているが
清水 確かに私たちの親世

代では週休2日は考えられなかったが、今では多くの業種に加え官庁や学校も週休2日が当たり前になっている。やはり建設業も同じようにならなければ、入口の段階でイメージが悪くなってしまう。国や地方自治体も週休2日に対応した環境を整えている中で対応できないのは、建設業界側にも問題があるのではないかと。世の中の変化に応じて、われわれも変えるべきところはある。新・担い手3法は変えていかなければならない。

会員に対しては
清水 「ブランド・ハブ

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

今、われわれが地域のために何をなすべきかを真剣に考える必要がある。そのためにも、新・担い手3法の精神をしっかりと頭叩き込むとともに、インフラに対する正しい理解を発信

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。

清水 「ブランド・ハブンスタンズセオリー」という理論がある。これは、キャリアの多くが偶然によるもので、その偶然をいかにチャンスと捉えて生かしていくかが成功につながるという考え方だ。会員みんな、こうした考えを共有していく。